

SDG指標とグローバル・レビュー

国連統計部次長
大崎敬子



目次

- I. 国際開発戦略の変遷
- II. 持続可能な開発目標(SDGs)とは
- III. SDG指標を用いたモニタリング

国際開発戦略の変遷

- I. 1945-1960: 初期の経済開発
- II. 1960, 70, 80年代: 国連開発の十年
- III. 1990年代: 世界サミット・大規模な国際会議の繚乱
- IV. 2000-2015: MDGs期
- V. 2016-2030: SDGs期



2000-2015年:ミレニアム開発目標 (MDGs)期

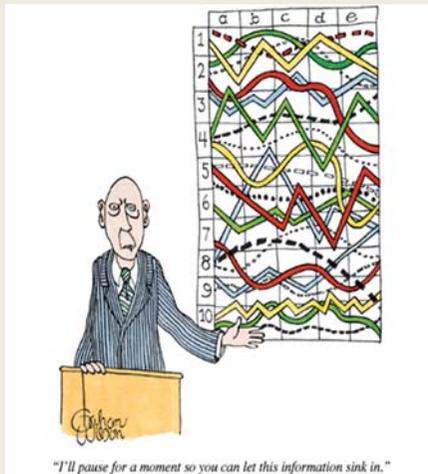


- MDGsは、国連が主導した、貧困撲滅を究極的な目的とするグローバルな取り組み
- 90年代に開催された主要な開発会議やサミットで議論された議題、目標を統合、2000年の国連ミレニアムサミットにて採択される
- 2015年までに達成すべき具体的な数値目標が設定される(8目標、21ターゲット、60指標)
 1. 貧困撲滅
 2. 教育の向上
 3. 女性の地位向上
 4. 幼児死亡の低下
 5. 妊産婦の健康
 6. HIVエイズ等の疾病撲滅
 7. 環境の持続
 8. 開発のためのパートナーシップ
- 数値を使ったモニタリングの手法が評価される

政策立案、評価に不可欠な統計

“ *Being a statistician is the sexiest job of the 21st Century* ”

- Hal Varian, Chief Economist, Google (2012)
- Harvard Business Review (2013)



統計は政策立案、評価に不可欠な資料という認識が一般化

持続可能な開発目標(SDGs)とは



SDGs作成を支えた二つの大きな流れ

1. 事務総長主導によるMDGs後の開発戦略の模索

2010年、ハイレベル・パネル(HLP)会議が、事務総長に2015年以降の開発戦略について考察するように要請(決議65/1)

2. Rio+20 環境会議(2012)からの流れ

決議文書は1)GDPを補足するような“進歩の指標”の必要性を名記、2)SDGs作成に向けての作業を始めるよう示唆(63/288)



SDGsの作成プロセス

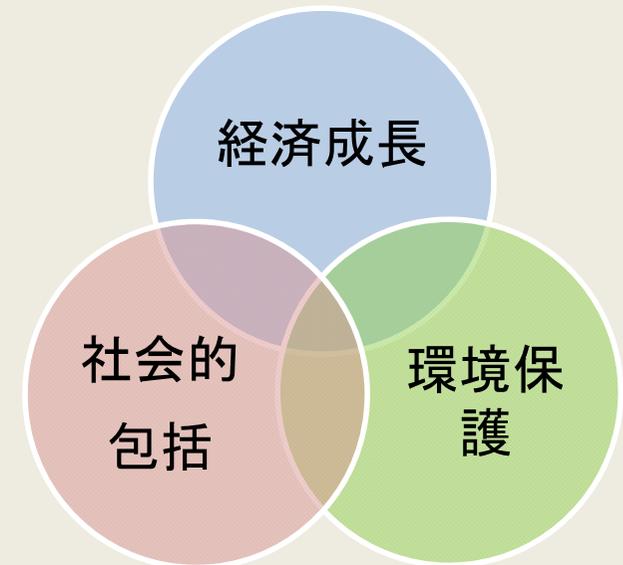
- 加盟国主導のプロセス
- 2013年にはOpen Working Group (OWG) が設立され、SDGsの素案作りが始まる
- 2014年7月、OWGが17のSDGs、169のターゲットを提案
- 2015年初めより政府間交渉
- 2015年3月、国連統計委員会にSDG指標の作成を要請
- 2015年9月、「国連持続可能な開発サミット」にて全会一致で採択



2030 アジェンダー世界を変えるためにー

2030 Agenda for Sustainable Development

- SDGsを軸とする、あらゆる形態の貧困撲滅を目的とする行動計画
- 今後15年間に向けた開発のための指針(2006-2030)
- 先進国も対象とするグローバル・アジェンダ
- 経済、社会、環境分野を包括的に網羅する
- 「No one left behind(誰一人取り残さない)」
社会的格差、弱者への配慮
(農村・都市、ジェンダー、移民、障がい者など)



持続可能な開発目標 (SDGs)

17の目標、169項目のターゲット



1. 貧困撲滅
2. 飢餓の撲滅と食糧の安全確保
3. 健康な生活、福祉の推進
4. 公平な教育機会
5. ジェンダー平等
6. 水、衛生へのアクセス
7. 持続可能で近代的なエネルギー
8. 雇用、経済成長
9. インフラの充実、産業化の促進、イノベーションの拡大
10. 国家間の不平等の是正
11. 持続可能な都市、居住地の促進
12. 持続可能な消費と生産
13. 気候変動に対する対策
14. 海洋、海洋資源の確保
15. 陸上生態系、森林資源の確保、砂漠化への対処
16. 平和で公正な社会の構築
17. SDG推進に向けた国際的連帯の活性化

SDG指標を用いたモニタリング

2030アジェンダの進展のモニタリング

- 国、地域、世界レベルでのモニタリング
- 2030アジェンダのモニタリングは先進国にも適用される
- ハイレベル・ポリティカルフォーラム(HLPF)にて定期的に進捗状況を審議

ECOSOCにて各年審議

4年毎に国連総会で審議

- 2016年7月18－20日: NYにて第一回HLPFの開催

22カ国が自発的に報告

テーマ別の報告, サイド・イベント など

- SDG指標を用いたモニタリング



SDGインディケーター・フレームワーク

- 目標 (Goal), ターゲットに対応した指標を選定し、SDGsの達成度を適宜、モニタリングしてゆくためのフレームワーク
- 2015年6月、国連統計委員会の傘下に、28ヶ国の代表から成るIAEG-SDGs (専門家グループ) が設立され、SDG指標の策定の作業を開始
- 2016年3月、IAEG-SDGsは、230のSDG指標を統計委員会に提出し、承認される。ECOSOC, GAにて採択される予定

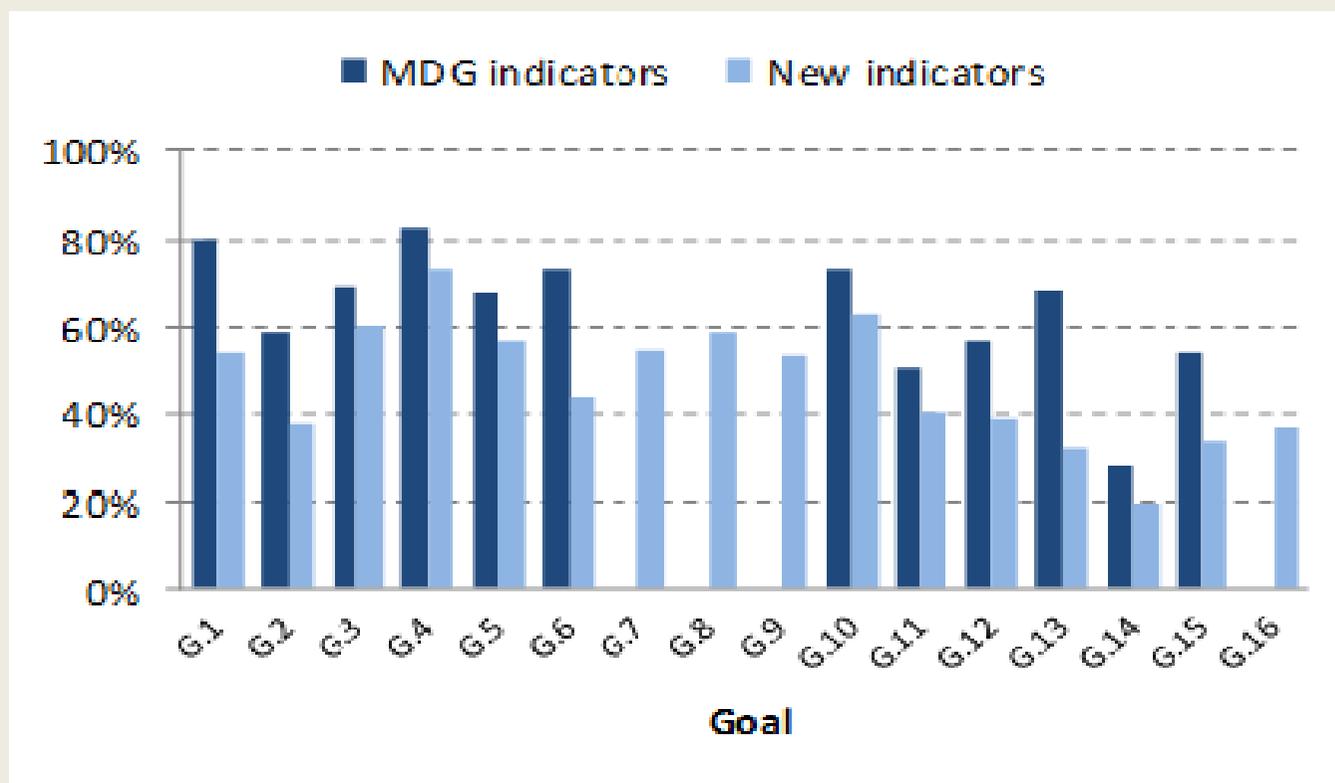
目標 (17) → ターゲット (169) → 指標 (230)

SDG指標を用いたモニタリングのチャレンジ

- 膨大な量のデータが必要とされる（230の指標×人口社会的属性による分析）
- 統計的に精査されていない指標、国際比較性を欠く指標も多い（約3割）
- 統計処理能力が不十分な開発途上国、小国への負担
- 各統計機関の連携の必要性
- 公的統計以外の統計の活用？

モニタリングに必要なデータはまだまだ不十分

MDG、SDG指標を算出できると返答した国の割合（指標別）



Source: Results of the global questionnaire of the Friends of the Chair on broader measures of progress: Part II: Availability of indicators for Sustainable Development Goals and associated targets (Background document to the forty-sixth session of the Statistical Commission). Based on the responses of 91 countries.

インディケータ・フレームワークの更なる向上へ向けて

- IAEG-SDGsは引き続きSDG指標の向上に努める

- 指標の3分類化

- 幾つかの分科会を創設し、指標の国際標準化に努める

- モニタリング・システムの確立

指標の3分類

- 国際的に合意された明確な定義があり、多くの国が定期的に統計を提供できる。

→ 例： 死亡率、就学率

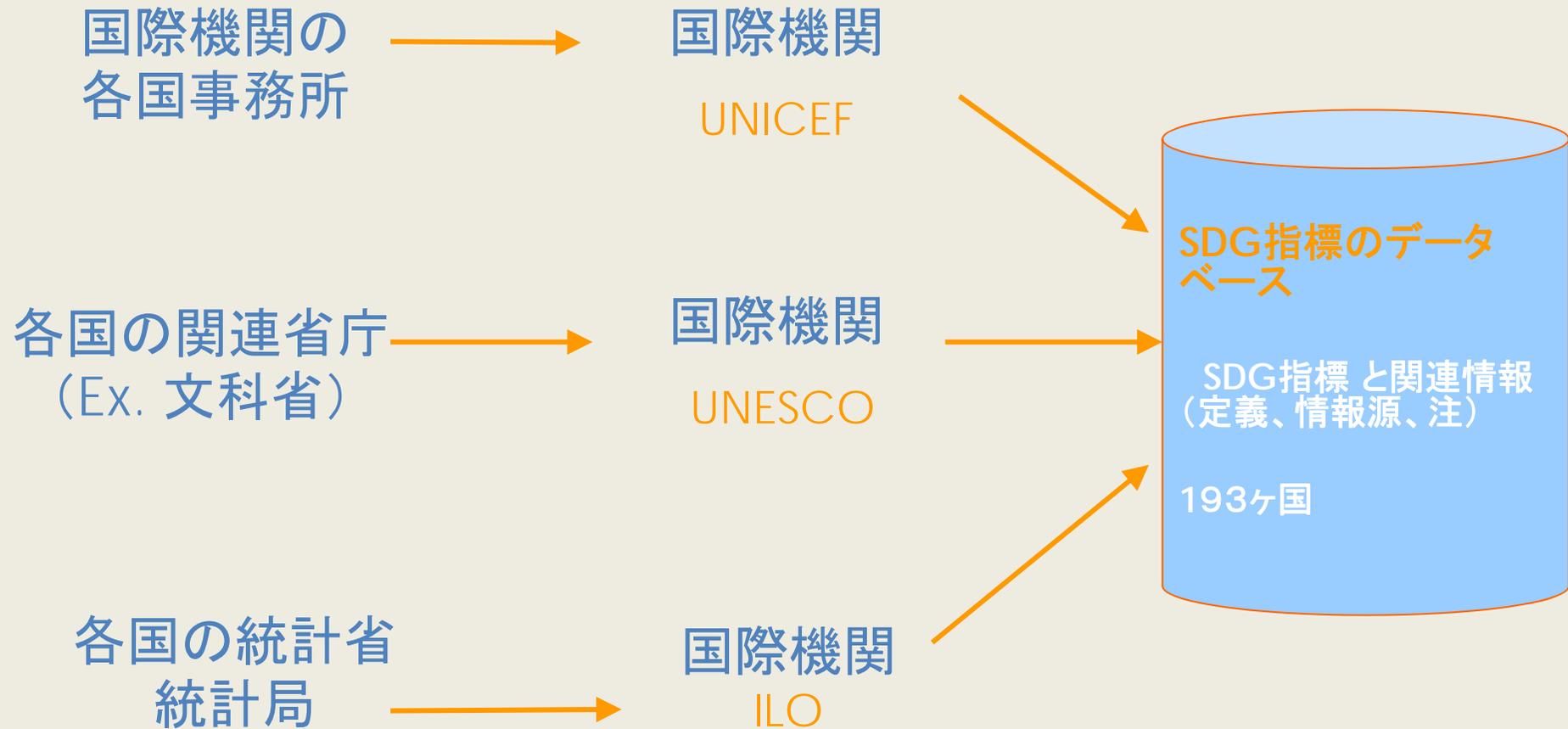
- 国際的に合意された一応の定義はあるが、多くの国は、定期的な統計の提供に問題がある。

→ 例： 女性に対する暴力

- 国際的に合意された定義が無く、多くの国が統計を定期的に提供できない。

→ 例： スラム地域、リサイクル率

SDG指標を用いたグローバル・モニタリングの仕組み



SDG 指標一つ一つに、関連する国際機関が責任をもってデータ収集、統計手法の向上にあたる

SDGs達成への進展をまとめた報告書

- 世界中から集められるSDGs指標は、2つのレポートにまとめられ、毎年、HLPFに提出される

1) SDGsに関する事務総長レポート（加盟国向け）

2) グラフ等を用いて図解するレポート（一般大衆向け）

- この7月に初めて発刊



終わりに

- 2030アジェンダはSDGsを軸とする新しい国際開発戦略
- これまでにない広範な分野を野心的に網羅
- 指標を使ったモニタリングには課題が山積
- 国内でも、あらゆる関連機関、NGOs間での連携が不可欠
- 国、政府だけでなく、一人ひとりの意識と行動が求められている

ご清聴ありがとうございました。

尚、ここで述べられている意見は個人の見解に基づくものであり、国連の見解を代表するものではありません。